

近年、空前の猫ブームが到来しています。ペットフード協会の調査によると、今後猫の飼育頭数が犬を上回るとの報告もあります。私たちの動物病院でも、以前よりもさまざまな種類の猫が来院している印象があります。

さて、そんな猫ブームの中で人気があるのは、スコティッシュフォールドやマンチカンなどの洋猫ですが、町の中で野良猫として見かける、いわゆる日本猫もかわいいですよ。

ペットショップで売っている洋猫では見たことがありませんが、野良猫で尻尾が曲った猫を見たことがありますか？ 小さいころそんな猫を見て、尻尾が事故で折れてしまっていたかわいそうだな、と思った覚えがあります。しかし、「かぎ尻尾」の猫のルーツ

を探してみると、そうではないようです。

猫の尻尾がかぎ尻尾になる理由は、先天的な遺伝によるものがほとんどです。遺伝子の突然変異によってこのような猫が誕生したと言われています。

尾曲がりの遺伝子は劣性遺伝で、真つすぐな尻尾より珍しいです。しかし、日本猫の特徴の一つとも言えるほど、日本には尾曲がりの猫が多いのです。この理由の裏に、日本の時代背景が強く映し出されています。

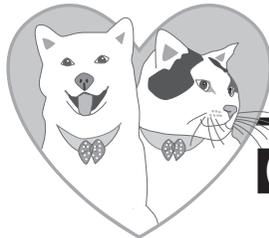
江戸時代のころ、ちまたでは猫又伝説が流行していました。猫は年齢を重ねると尾が二股に分かれ、妖力を得るといふ言い伝えのことです。

妖力を得た猫は猫又と呼ばれ、人肉を食らうと言われていました。江戸時代の

松波動物病院メディカルセンター

獣医師 市川ゆきえ

愛するペットのために...Vol.397



動物医のアドバイスダイアリー

【幸運を呼ぶかぎ尻尾猫の秘密】

人々はこの妖怪を恐れ、二股の尾にならないように断尾するようになったそうです。尾の短い猫が好まれるという時代背景のため、突然変異で生まれた尾の短い猫が好まれ、自然と選択育種されたというわけです。

さらに、長崎は尾曲がりの猫が何と8割を占めるのだとか。江戸時代の長崎はオランダ貿易の拠点。オランダが運営していた東インド会社のアジア支店は、インドネシアにありました。尾曲がりの猫の原産地は東南アジアで、特にインドネシア近辺に多いことが調査により確認されています。

オランダ船は船内のネズミを駆除するために、猫も一緒に乗せていました。おそらく、オランダ船がインドネシアで尾曲がりの猫を乗せて長崎へ来て、その時に乗っていた猫が長崎で船を

降り、そのまま繁殖したのでしょう。

日本ではよく見るかぎ尻尾の猫ですが、海外では珍しいようです。そのため、中国では「幸せの扉を開くかぎ尻尾」ということわざがあるとか。ヨーロッパでもかぎ尻尾の猫は、幸せを引つけて持つてきてくれる「幸せの猫」と呼ばれています。

さらに、日本猫を起源とする短い尻尾の猫が、「ジャパニーズボブテイル」として1976年に品種登録されました。日本から送り込まれた尻尾の短い猫を、アメリカで繁殖させたのが始まりとされています。

洋猫のようなフサフサ長い尻尾も魅力的ですが、日本特有の「幸運を呼ぶかぎ尻尾猫」を飼ってみませんか？